

総務 常任委員会

所管事務調査の一環として11月5日から7日まで、山形県長井市、西川町及び寒河江市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉

委員長：大花 務 副委員長：佐川 琴次
委 員：吉見優一郎 委 員：緑川 摂生
委 員：高橋 光雄

山形県長井市

【国の交付金と内閣府地方創生人材を活用した「スマートシティ長井事業」】

外部知見を取り入れた組織体制を構築し、地域通貨「ながいコイン」、無人スマートストア、GPSによる児童見守り、有害鳥獣対策・河川監視など多岐にわたり取組み、公共交通では、利用データを数値化・分析し、ルートや停留所の最適化を図り、本市の施策推進において極めて参考になるものでした。



山形県西川町

【関係人口創出をはじめとする“つなぐ”施策】

国の制度やデジタル住民票などを駆使し、若者や富裕層をターゲットとした戦略を展開しており、その結果、関係人口は50倍以上に増加し、予算規模も1.6倍へ拡大しました。DX推進の一方で、根底にある「地域の寛容性」や「人の繋がり」を重視する熱意に触れ、明確な戦略と実行力を持って町全体を活性化させる手法は、議員活動において多大な示唆を与えるものでした。



山形県寒河江市

【旧田代小学校を活用した「学びの里TASSHO」】

地元住民によるNPO法人が、施設を管理・運営し、地産地消の料理提供や体験事業等により黒字経営を継続しています。過疎化が進む中で地域を守ろうとする住民の熱い情熱と、廃校がコミュニティ拠点として機能する重要性を強く感じる一方で、現場では後継者不足等の課題もあり、本市にも共通する切実な問題であると認識しました。住民の「地域愛」が地域存続の鍵であることを学び、本市の地域づくりにおいても非常に有益でありました。

市民産業 常任委員会

所管事務調査の一環として、11月10日から12日まで、兵庫県丹波篠山市、豊岡市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉

委員長：菅原 修一 副委員長：遠藤 公彦
委 員：植村 美洋 委 員：鈴木 裕哉
委 員：根本 建一 委 員：室井 伸一

兵庫県丹波篠山市

【丹波篠山観光まちづくり戦略】

観光客が「黒豆まつり」や城下町エリアに集中することや、滞在時間が短いことなどが課題であり、二次交通の提供や宿泊施設の整備、インバウンド対策、効果的な情報発信などに取り組んでいます。これらの取り組みは、本市の観光の振興において大いに参考になりました。



兵庫県丹波篠山市 (株)NOTE

【古民家等の歴史的建造物を活用した観光施設の運営】

古民家や蔵などを店舗や滞在型宿泊施設として再生・活用し、人を呼び込み賑わいを戻す取り組みを行っています。これらの取り組みは、本市の古い町並みや暮らし・文化を生かしながら、観光や商業の振興を考えるうえで非常に参考になり、今後進められる「大本家住宅」事業についても大いに期待するものです。



兵庫県豊岡市 たじま農業協同組合

【豊岡市と連携して行っている農業の取り組み】

環境への負荷軽減と安全で安心な農産物の安定供給を図るために、農薬や化学肥料に頼らず、お米とそこに生息する生物を同時に育む「コウノトリを育む農法」を全国に先駆け、生産者、農協、行政、販売先の四位一体で取り組み、市内すべての学校給食に「コウノトリを育むお米」が提供されています。これらの取り組み、及び実現するまでの経過は非常に感銘を受けるものであり、本市の農業施策において大変参考になりました。

教育福祉 常任委員会

所管事務調査の一環として令和7年11月12日から14日まで、石川県白山市及び小松市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉

委員長：柴原 隆夫	副委員長：永山 均
委 員：石名 国光	委 員：深谷 弘
委 員：佐川 京子	委 員：大木 紘理

石川県白山市

【学校統合について】

白山市は、平成17年の合併直後に小中学校の再編を検討し、平成20年に合併特例債を活用して小・中学校を併設した白嶺小中学校として、とても魅力的な校舎を建設しました。現在は校舎建設から17年が経過し、児童・生徒数は3分の1程度まで減少しているとの説明が有りました。本市でも学校の統廃合を検討する際は、将来を見据えて適正な配置や規模を検討する必要性を感じさせられました。



石川県小松市

【赤ちゃんおむつ定期便・子育て政策について】

小松市では、生後3ヶ月から1歳の誕生日を迎える月までのお子さんが居る家庭を対象に、月2千円程度の紙おむつを無償提供する「赤ちゃんおむつ定期便」を実施している。この事業の特徴は、おむつを提供するだけの事業ではなく、子育て経験者が子育ての悩み等の相談に応じ、見守りチェックシートの作成や、虐待の監視までを一体的に実施していました。その他、様々な子育て政策を実施しており、本市においても大変参考になるものでした。



建設水道 常任委員会

所管事務調査の一環として11月4日から6日まで、広島県竹原市、岡山県矢掛町及び愛知県刈谷市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉

委員長：水野谷正則	副委員長：戸倉 宏一
委 員：高畠 裕	委 員：筒井 孝充

広島県竹原市

【「歴史的資源(歴史的町並み)を活かしたまちづくりについて」 にぎわいと共に調和のとれた町並みを形成】

江戸時代に製塩業や酒造業で栄えた旧町並みが重要伝統的建造物群保存地区として国の指定を受け、保存と活用の基本構想のもと、「歴史的資源を活かしたまちづくり」に取り組んでいます。にぎわいと共に調和のとれた伝統的な町並みを形成しており本市のまちづくりにも参考になりました。

岡山県矢掛町

【「矢掛町伝統的建造物保存地区保存活用計画について」 歴史かおる文化のまちづくりへの取り組み】

歴史的な建造物の在り方や、古民家等の保存や修景、後世への継承を考えるうえで本市の施策にも参考になる事業でした。

愛知県刈谷市

【「刈谷駅北地区整備事業について」 多彩な駅前の充実により、活気やにぎわいの創出】

駅前の方通行化や電線類の地中化、歩道拡幅、イルミネーションや歩行者デッキでのイベントの開催など、ハード整備とソフト事業も展開しており、本市の駅周辺やまちなかにぎわいの創出を考える上で大変参考になりました

